

毒麦のたとえ

シリーズ～神の国～

2013/2/24

マタイによる福音書13:24~43

イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。芽が出て、実ってみると、毒麦も現れた。僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょうか。』主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』」

それから、イエスは群衆を後に残して家にお入りになった。すると、弟子たちがそばに寄って来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。イエスはお答えになった。「良い種を蒔く者は人の子、畑は世界、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである。毒麦を蒔いた敵は悪魔、刈り入れは世の終わりのことで、刈り入れる者は天使たちである。だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそうなるのだ。人の子は天使たちを遣わし、つまりきとなるものすべてと不法を行う者どもを自分の国から集めさせ、燃え盛る炉の中に投げ込ませるのである。彼らは、そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。そのとき、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く。耳のある者は聞きなさい。」

神の国についての新たな教え

- ◆ **マタイ福音書では「神の国」は「天の国」と呼ばれている**
 - ◆ ユダヤ人であるマタイが「神」という言葉を避けた
- ◆ **このたとえ話はマタイ福音書にだけ載っている**
 - ◆ 解説付きのたとえ話でもある
- ◆ **「神の国」の教えには2種類ある**
 - ◆ 神の国の住人のあるべき姿
 - ◆ 神の国の性質

毒麦のたとえ

- ◆ 畑に麦を蒔いたが、敵が毒麦を蒔いた
 - ◆ 敵は収穫をだめにしようと思んだ
- ◆ 実りはじめて毒麦の存在に気づき、僕たちは主人に告げた
 - ◆ 実るでは毒麦の存在には気づかなかった
- ◆ 主人は、収穫までそのまま育て、刈り入れるときに分けるよう命じた
 - ◆ 収穫する時には見分けがつくので

たとえの解説

- ◆ 「良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである」
 - ◆ このたとえでは「種」は神の言葉ではない
- ◆ 悪魔は「悪い者」を神の国に忍び込ませる
 - ◆ 「つまずきとなるものすべてと不法を行う者ども」
- ◆ 「悪い者」は「世の終わり」まで神の国にとどまり、最後に裁かれる
 - ◆ 神は「悪い者」を取り除かない
 - ◆ 世の終わりに「人の子」(キリスト)が彼らを集め、裁く

神の国(教会)における「毒麦」とは？

◆ 迫害

- ◆ 今も教会に対する迫害は続いている

◆ 異端

- ◆ モルモン教・エホバの証人・統一教会

◆ 分裂

- ◆ 教会は一致に向かわなければならないのだが…

◆ 誘惑

- ◆ 特に教職者を墮落させる金・異性・権力

個人における「毒麦」とは

◆ 病氣＜パウロ＞

- ◆ 「わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです。」＜2コリント12:7＞

◆ 誘惑

- ◆ 「人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです。」＜ヤコブ1:14＞

◆ 迫害

- ◆ 「キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます。」＜2テモテ3:12＞

「毒麦」に対処する

◆ 警戒し、遠ざかる

- ◆ 「兄弟たち、あなたがたに勧めます。あなたがたの学んだ教えに反して、不和やつまずきをもたらす人々を警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。」<ローマ16:17>

◆ 忍耐して「終わり」を待つ

- ◆ 「兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。」<ヤコブ5:7>